

レポート リそなAMが提供する「R246」の商品性と活用法

目標リターンを明示し お客さまと運用の目標を共有

2015年8月、りそなグループの資産運用会社・りそなアセットマネジメント(りそなAM)が誕生した。その同社が第1号ファンドとして新規設定したのが、中長期的な資産形成に有効とされるラップ型ファンド「りそなラップ型ファンド」(愛称・R246)だ。2016年2月26日の設定・運用開始で、1月末からりそなグループ3行にて取扱いが開始されている。

投資から資産管理へ 時代に適した商品として開発

「りそなAMは、りそな銀行が半世紀にわたって培った信託銀行としての運用力を、投資信託という商品で幅広いお客さまに提供すべく設立した資産運用会社です。日本や世界の経済状況が大きく変化を続けている中、将来に向けた資産運用の重要性がますます高まっています。よく『貯蓄から投資へ』と言いますが、資産運用を行

うお客さまが求めるものは、『投資』の提案から『資産管理』の提案へと変化しています。R246開発の背景には、こうした大きな時代の潮流があるのです」

こう語るのは、りそなAMの南川久・取締役営業推進部長だ。投資は利益を得るために有価証券等に資金を投じるものだが、資産管理には保有する資産の価値を目標りさせずに保つといった意味合いも含まれている。金融先進国である米国の金融機関では、資産に関する運用目標を顧客と共有し、その達成のために専門家として助言をする資産管理コンサルティング

が拡大している。

わが国でも金融庁が資産運用の高度化を掲げて「フィデューシャリー・デューティ」(受任者責任)の重要性を訴え、投資から資産管理へと舵が切られ始めた。資産管理の実現には、資産全体で必要とする利回りなどの「ゴール」をベースとした提案が不可欠。そこで、お客さまがゴールを明確にしやすく、金融機関とも共有しやすい商品として、目標リターンの分かりやすいファンド・R246が開発されたのである。

また、りそなグループは現在「ストック型ビジネスモデル」の確立を目指しているという背景もある。これは、端的に言えば、顧客数と残高を飛躍的に増やすことにより投資へのシフトチェンジを目指すというもの。実現するには、投資商品の長期保有が欠かせない。そこで、長期的な資産形成に有効なラップ型ファンド開発に至ったわけだ。

信託報酬を低く抑え 長期保有の負担を軽減

次にR246の商品性について見ていこう。このファンドの主な

特徴は次の三つだ。

- ①目標リターン別の運用タイプ
- ②低水準の信託報酬
- ③年金運用ノウハウの活用

R246には安定型・安定成長型・成長型の三つのタイプがあり、5〜10年程度保有した場合の1年間あたりの目標利回り水準をそれぞれ短期金利+2%、同4%、同6%としている(図表1)。

南川部長によると、国内運用会社が設定するラップ型ファンドの中で目標リターンを明示した商品は初。当然、開発にあたっては「表示利回りを保証するものだと誤解されるのではないか」という議論があった。しかしながら、どの程度のリターンを目指すのかが明らかになっていくのが、特に投資初心者には分かりやすく、金融機関担当者もお客さまと目標を共有しやすいとの判断から、リスク水準とともに目標リターンの明示を決定したという。

ラップ型ファンドは一般に、手数料が高額でコストが高いというデメリットを抱えている。しかしR246は信託報酬を業界最低水

準に設定し、低コストな商品を実現した。

購入申込総金額1億円未満では購入時手数料が1.0%かかるものの、安定型の場合、信託報酬は年0.6%。一般にラップ型ファンドの信託報酬は1.0〜2.0%程度であるため、長期間保有するほど他の商品と差が出てくる。

例えば1000万円分を購入し10年間保有した場合、R246(安定型)は総コスト70万円(購入時手数料10万円+信託報酬60万円)。一方で、信託報酬1.5%のファンドの場合、購入時手数料が無料だったとしても10年間のコストは総額150万円に達する。長期保有を前提とするなら信託報酬の低さが大きなメリットとなることは言うまでもない。

リーズナブルな信託報酬を実現している要因としては、インデックスファンドを組み合わせたファミリーファンド方式であるという点が大きい(図表2)。R246はマザーファンドを通じて国内外の八つの資産へ分散投資をしているが、各マザーファンドは対象指

数の動きに連動するインデックスファンドなのだ。ラップ型ファンドには、ファンド・オブ・ファンズ方式や、アクティブファンドを組み合わせたファミリーファンド方式が多い中、インデックスファンドの組合せで構成することで、低コストを実現しているわけだ。

また、資産配分の見直しを年1回(市場急変時の対応は除く)とする点も、コスト引下げに貢献している。

りそな銀行には信託銀行として50年以上にわたり年金等を運用してきた実績があるが、そのノウハウの活用もR246の特徴の一つだ。具体的には、りそな銀行の資産運用部門から資産の配分比率等について投資助言が行われ、それを元になりそなAMが判断を下す仕組みとなっている。

なお、決算は年1回だが、信託財産の中長期的な成長を考慮し、分配は行われない見込みである。

長寿とインフレを切り口に 運用の必要性に気付かせる

では、R246はどんなお客さま



▶南川久・りそなアセットマネジメント取締役営業推進部長

